

これからの中学保健授業

—学習の広がりや深まり，主体的・協働的な学びのある授業づくり—

浜 田 幸 史 [鹿児島大学教育学部附属中学校]

A perspective on health education classes in Junior High Schools

HAMADA Koji

キーワード：課題解決学習の導入，学習指導の工夫

1 研究の仮説

課題解決学習を用いて，学習指導の工夫を図ることができれば，学習の広がりや深まり，主体的・協働的な学びのある保健の授業が展開できるのではないかと考えられる。

2 研究主題，研究仮説設定の理由

(1) ヘルスプロモーションの考え方と位置付けから

学校においては，ヘルスプロモーションの考えに基づいた体制づくりや環境の支援が必要とされ，「保健」の指導に当たっては，学級活動や学校行事などの特別活動及び総合的な学習の時間などにおいて，保健学習で身に付けた知識及び資質や能力を生かして課題解決などに取り組むことができるようにすることまでを含め，指導計画をつくる必要が生じていると考えられる。このことが，人々の健康的なライフスタイルを志向することに結び付くと考えられるからである。

(2) 学習指導要領における指導内容の明確化から

保健学習は，小学校3年生から始まり，高等学校の2年次までの9年間にわたって継続的に行われる。中学校では，小学校での学習を踏まえ，「個人生活における健康・安全に関する内容」を学習する。高等学校での包括的な学習に接続することを踏まえた指導計画が必要であると考えられる。

平成23年以降の学習指導要領改訂に当たり，教師が必ず教えなければならない指導内容が示されるようになってきているので，学習指導要領解説から，必ず取り扱う内容なのか，主となる学習内容を扱った上で触れるのか，伝える程度にとどめるのかを整理する必要があると考えられる。

平成29年に示された学習指導要領には，さらに「課題を見付け，あるいは発見し」や「表現すること」などの言葉が，目標や内容のなかに付け加えられている。学習スタイルとして問

題解決型学習を取り入れることの重要性を示していることがわかる。

また、学習指導要領解説の内容の取扱いには、「保健分野の指導に際しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。」とあり、効果の上がる学習展開の必要性を説いている。

(3) 次期学習指導要領実施に向けて

中教審教育課程部会・教育課程企画特別部会が、平成28年の報告書において、次期学習指導要領に向けた審議のまとめとして、保健の学習過程の在り方について、知識の指導に偏ることなく、態度、知識と技能、思考力・判断力・表現力等の三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図ることや、健康課題に関する課題解決的な学習過程や、主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図ることを打ち出している。

学習内容の取扱いについて、平成29年に示された学習指導要領において、他教科等との関連を積極的に図ること、指導内容や指導方法について合理的配慮をすること、言語活動やICT活用を積極的に行うことなど、具体的な体験から学習効果を高めることが強調されている。体力・運動能力調査結果報告や保健学習推進委員会報告などを受けて、保健学習における学習方法や学習形態などのより一層の充実が求められていることがわかる。

(4) 保健学習の実態の概要から

公益財団法人日本学校保健会の保健学習推進委員会が、平成25年9月、平成29年2月の報告書において、保健学習推進上の課題を明確に示している。

【表1 保健学習についての肯定的回答】

※ 設問4,5については、単元毎の回答の平均値を示している。

質問と平成 16, 22, 28	小5	中1	高1	高3
年度の回答 (%)	H16/H22/H28	H16/H22/H28	H16/H22/H28	H16/H22/H28
1 保健の学習が好きだ	53.2/63.7/65.9	33.1/42.1/50.9	37.0/43.8/51.3	39.9/38.0/47.9
2 保健の学習は楽しい	46.7/59.6/60.6	30.1/41.8/51.0	32.4/39.2/49.3	34.7/34.0/45.1
3 保健の学習は大切だ	88.7/93.8/94.0	79.2/85.7/87.9	84.5/88.7/92.5	88.5/90.6/93.6
4 内容がわかった	59.6/68.5/72.4	54.4/58.5/62.5	53.7/56.6/60.9	61.2/69.5/70.6
5 考えたり工夫したりできた	34.6/47.4/52.8	31.0/39.6/47.4	26.0/32.1/39.5	24.6/30.8/43.4

児童生徒の多くは、保健学習が「大切」だと回答しているものの、「好き」、「楽しい」、「考えたり工夫したりできた」とは思っていないようである。授業において、思考・判断させる場面が少ないことが読み取れることから、保健学習において、児童生徒の興味・関心を喚起したり、思考を促したりするような指導方法の工夫、学習内容の系統性を意識した展開の工夫が課題であることが考えられる。

(5) これからの中学保健の授業づくり

(1)～(4)を踏まえて、生徒の知識・技能の習得と活用を往還させる必要があると考えた。そこで、本研究では、課題解決学習を用いて、保健の授業を進めることとする。

また、生徒の知識・技能の習得、活用をよりよく往還させるためには、いろいろな問題解決技法や思考法を用いさせることが有効であると考え。多様な授業の展開をすることで、学習の広がりや深まり、主体的・協働的な学びのある保健の授業が展開できるのではないかと考える。

3 研究の内容と実際

(1) 課題解決学習の導入

生徒が健康や安全の視点から情報を捉え、心身の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりを目指して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることを考える際に、「どうすればうまくいくのか」といった疑問、「〇〇に気を付ければうまくいくのではないか」といった仮説、「□□の工夫をすればうまくいきそうだ」といった予測などが生じる。これらの課題意識を引き出し、主体的に学習を進められるようにするためには、生徒自身に単元や一単位時間の授業の流れを把握させる必要がある。表2は、その大まかな流れを示したものである。

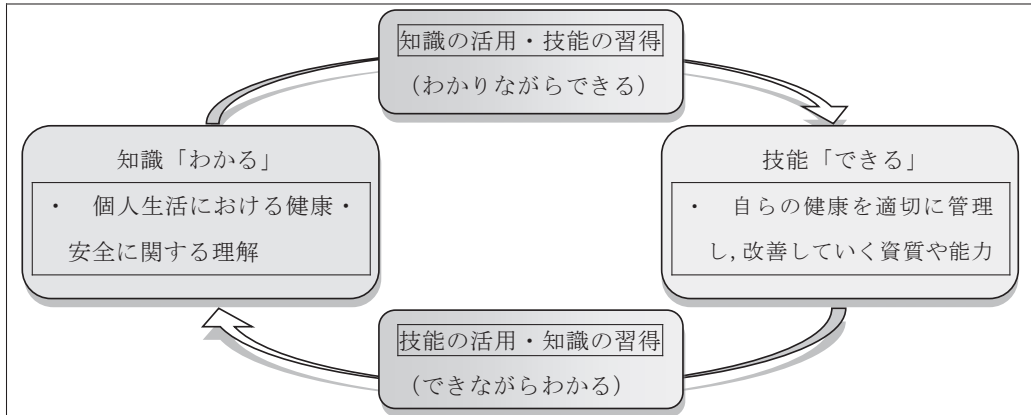
授業の流れを把握させた上で、導入時に想起した事象や発散した情報を基に、学習課題を設定させる。課題解決を図る方法を提示したり、生徒に選択させたりしながら、多様な活動を位置付ける。そうすることで、学習の広がりや深まり、主体的・協働的な学びのある授業の展開を目指す。

【表2 課題解決学習型の保健授業の流れ】

過程	時間	学習内容等	形態
復習	5分	・ 教科書や副読本を用いたクイズ形式の発問等	個、ペア、グループ等
導入	10分	・ 思考ツールを用いた事象の想起、情報の発散等	個、ペア、グループ、全
展開	30分	・ 学習課題の設定	個、全
		・ 問題解決技法を用いて課題解決を図る活動	個、ペア、グループ、全
終末	5分	・ 学習課題に対応した学習のまとめ、教師説話等	個、全

(2) 学習指導の工夫

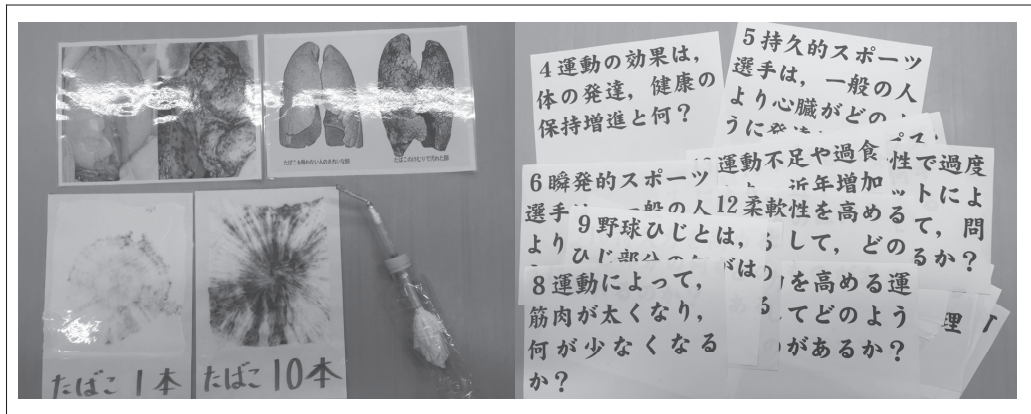
授業づくりにおいては、知識・技能を関連付けて指導を展開する。その往還を重視することで、知識の深まり、技能の高まりがより一層期待できると考える。図1は、そのことを図式化したものである。具体的には、以下のア～エのような手立てを授業場面で取り入れる。



【図1 知識・技能の往還】

ア クイズ形式の発問の導入

知識を深めるために、意欲喚起を図りながら復習をさせる。具体的には、教科書や副読本を用いたクイズ形式の発問を導入する。生徒は、ペアで発問・解答し合ったり、教師の発問に解答したりする。知識の定着を図るために、アウトプットしながらインプットすることを重視し、キーワードに関する資料を活用したり、動作をつけたりさせながら解説等を行うようにする。そうすることで、学習内容の重要事項等についての理解を深めさせたり、個々の主体性を生かし、発言をさせたりする。



【図2 学習資料「喫煙と健康」とクイズ問題「運動と健康」の例】

イ 思考ツールの活用と学習課題の設定

学習課題を設定するために、思考ツールを用いて事象を想起したり、キーワードに関連する情報を発散・収束したりする。具体的には、個々で学習シートに絵や図、言葉などを書き込んだり、ペアやグループで学習ボードに、キーワードから想起する内容等を書き込んだ付箋紙を貼ったりする。学校行事等を取り上げることで、学習意欲の喚起を図りながら課題意識をもたせたり、本時のキーワードから発想を広げさせることで、身近な問題に気付かせた

りさせる。図3は、授業で用いた学習シートの例である。

ここでは、積極的に個々の意見交換をさせたり、ペアやグループでの協働的な活動に取り組みせたりすることで、生徒全員が、課題意識を深めることができるようにする。深まった課題意識を基に、個々の学習課題を設定し、包括する形で全体の学習課題を設定する。



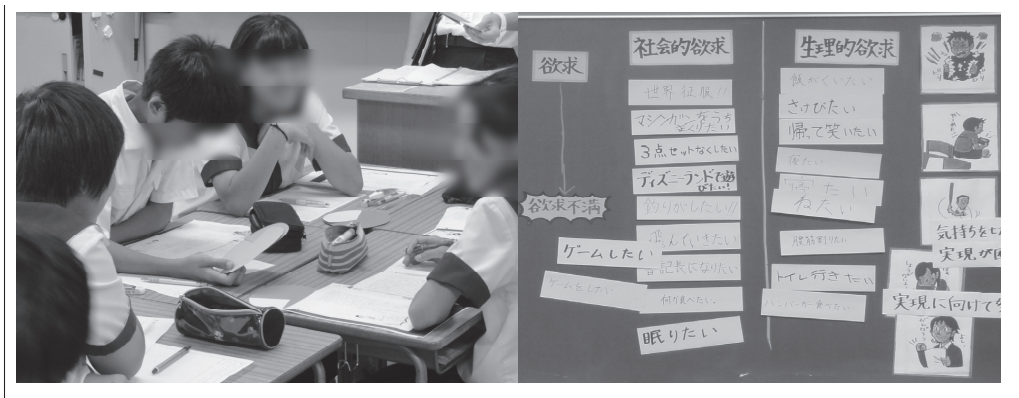
【図3 学習シート「ストレスへの対処」と「運動と健康」の例】

ウ 問題解決技法を活用した課題解決

【表3 個々の学習課題の例】

- ・ どのようにしたら身長は伸びやすくなるのか。(1年「身体機能の発達」)
- ・ いろいろなストレスの対処の仕方とその効果を知りたい。(1年「欲求やストレスの対処と心の健康」)
- ・ 桜島が大爆発した時に、どう行動すればよいかを話し合いたい。(2年「自然災害による障害の防止」)
- ・ 捻挫や骨折の手当は、どのようにしたらよいか。(2年「応急手当」)
- ・ 睡眠のとり方で工夫できることを考えたい。(3年「生活行動・生活習慣と健康」)
- ・ 入試前、インフルエンザをどうすれば確実に予防できるのか。(3年「感染症の予防」)

表3に示したような生徒個々の学習課題解決を図るに当たり、問題解決技法を活用する。ここでは、生徒の意欲喚起を図ることも考え、多様な展開となるように、学習内容に応じて用いる方法を提示したり、生徒に選択させたりする。そうすることで、学習の広がりや深まりを生んだり、生徒自身が主体的・協働的に活動に取り組んだりすることができるからである。具体的には、学習シート等に思考ツールやチャート図を用いたり、グループでの話し合い活動にKJ法やロールプレイ、実習等を用いたりするなど、意図的な場面設定を行い、思考の活性化を図る。



【図4 KJ法を導入した話し合い活動「欲求不満とストレスへの対処」の例】

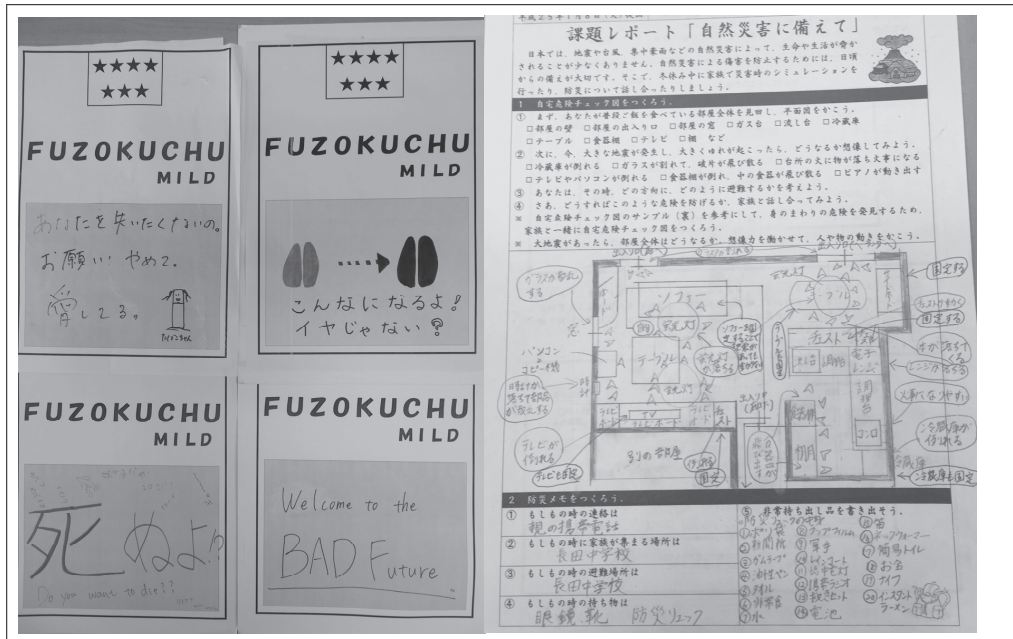


【図5 ロールプレイ「応急手当」と実習「巻き包帯法」の例】

エ 学習課題に対応した学習のまとめ

授業の終末においては、学習課題に対応したまとめを必ず行う。個々の学習課題解決を図るに当たり、どのような方法を用い、どのような答えを見出したかを確認する。その場面では、知り得たことは同じでも、一人一人感じ、考えたことは違ってよいというスタンスで、他者の考えにも触れる機会とする。

学級活動や学校行事などの特別活動及び総合的な学習の時間などにおいて身に付けた知識及び資質や能力が、この場で生きるし、その逆のことも言える。このような教科を横断して身に付けるべきものが、本実践で明確にできることの一つでもある。



【図6 学習のまとめの例「たばこの警告表示」と「自然災害に備えてのレポート」】

5 研究の成果と課題

(1) 課題解決学習の導入

課題解決学習を導入することで、ほぼ全員の生徒が健康や安全の視点から身近な問題に關する情報を捉えることができるようになったと考えられる。多くの生徒が、情報の取捨選択や分析をすることで、自分なりの学習課題を見出し、一単位時間での課題解決の見通しをもつことができるようになったと考えられる。その一方で、学習課題をうまく見出せない生徒もいるので、いろいろな資料を提示したり、誘導発問をしたりする力量が教師に求められる。

課題解決学習や思考すること、他者との関わりといったことが好きかどうか、得意かどうかということが、保健授業についての生徒の愛好度等に関係しているようである。表4は、3年生に対する意識調査の結果である。

【表4 保健授業についての生徒の愛好度等】

(1) 保健の授業が好きか。(平成26年度と平成28年度)			
好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
27.8% / 34.4%	54.6% / 52.2%	15.1% / 12.9%	2.5% / 0.5%
(2) 保健の授業で健康や安全の意識を深められたか。(平成26年度と平成28年度)			
思う	少し思う	あまり思わない	思わない
67.3% / 74.4%	30.3% / 24.1%	1.2% / 1.5%	1.2% / 0.0%

(2) 学習指導の工夫

クイズ形式の発問の導入，思考ツールの活用と学習課題の設定，問題解決技法を活用した課題解決，学習課題に対応した学習のまとめ等を行うことで，多くの生徒が，保健学習の内容を身近なものに感じ取るようになり，意見を引き出しやすくなったと考えられる。

保健学習の始業前には，生徒がペアやグループをつくって，クイズ形式で問題を出し合う姿もしばしば見られるようになった。体育学習にも生かしていきたいことである。

毎時の導入では，どのような学習資料が提示されるのかを楽しみにする生徒もおり，学習意欲の喚起にも影響することが実証された。

問題解決技法の活用については，多くの生徒が協働的な活動をすることを楽しみにしていることを授業内外での対話からうかがい知ることができた。学習シート等にウェビングマップやチャート図を用いたことで，生徒の健康問題への課題意識を自然と探り出すことができるようになり，授業の導入から展開までの流れがスムーズに繋がるようになった。KJ法を導入した話し合いをしばしば行うようにしたところ，グループメンバーの互いの考えの相違点を見いだすことで，他者理解を深めるよい機会となり，全体での話し合い活動も活性化することとなった。ただし，ロールプレイについては，約束事等を決めて行わなければ，教師の意図に沿わないジェスチャーゲームのような活動になってしまいがちである。簡潔なルールを決めて行う必要がある。

学習シート等を活用することで，生徒自身が授業の見通しをもち，積極的に授業参加する姿が見られるようになった。長期休みの課題に楽しみながら取り組む姿勢も見られ，個人差はあるものの充実した記入をする生徒が増えた。作成した学習シート等のデータについては改善を加えながら積極的な活用を行うことで学習の効率化を図ることが今後の課題として挙げられる。

【表5 学習シート等を活用することで，保健の学習内容を「わかる」と実感している生徒の割合】

	平成 26 年度	平成 28 年度
よくわかっている	40.4%	57.0%
だいたいわかっている	52.4%	36.7%
あまりわかっていない	7.2%	6.3%
全くわかっていない	0.0%	0.0%